



音楽事始め — 失業と就職の青春記

石井 正三 (いしい まさみ)

医療法人社団&社会福祉法人 正風会 理事長
一般社団法人 医療戦略研究所 所長
いわき市



ピアノを習ったのは小学生の頃です。数年間続けたものの、中学進学頃にはもう止めてしまっ
て、アップライトピアノが段々花瓶台化していき
ました。

様相が変わったのはビートルズ旋風です。少し
お兄さん世代にはなりますが、世界を丸ごとダイ
ナミックなステージに変えてしまう様な勢いに感
化されて、当時「東芝赤盤」と呼ばれたアナログ
レコードを買いあさっては、ウチで鳴らす生活に
なりました。エレキギターとドラムのシンプルな
構成ですがそれぞれの個性ある歌声で多重唱もあ
り、よく聴くと時々、ハーモニカにピアノや鍵盤
楽器も聴こえてきます。新譜が出るたびにソラで
一緒に歌うほど聴き込み、マックス時には100曲
位意味も分からずそらんじて怒鳴っていました。
その効能たるや、単語としては分からなくとも、
次第に彼らのリヴァプール訛りの英語が解る感じ
になりました。ですから、私の英語の先生はビー
トルズです。後年、欧米の方々が時折私の英語を
BBC アナウンサーの様だと褒めてくれるとき、
dirty King's English すなわち「汚い英国英語」
だよ、と謙遜するのはそんな意味もあるのです。

あのビートルズ全盛時代、中学3年生のクラス
55人で、休み時間にヒットナンバーを怒鳴ると一
緒に付いて来るのは1人だけ、時々有名曲で数人
でした。残りは模様眺め、しかし今でもクラスメ
イトに感謝しているのは、途中で「ヤメロ！」と
言われた事が一度も無かったのです。生徒指導の
中では、グループサウンズ禁止、不純異性交遊と

同格のイケナイコトだった筈の時代の空気の中
すからね。統計学的には50人に2人以上つまり概
ね5%のラインというのは、有意の差が出るかど
うかのギリギリの線です。あの頃を思い出すと、
学位論文の基礎実験でも、その他何かをするとき
四面楚歌にみえても、一緒に走り出す仲間が見え
だすと、間違っただけをしている訳ではないと自信
を持って進む事ができる様になりました。

さて、ウチに放ってあったギターをいじりだ
し、音階（モード）和音（コード）そしてリズム
感を身につけると、1人でその全てを表現できる
便利なピアノに、気分がもう一度戻ってきたので
す。弾き語りスタイルなら、今日はリードギター
がないとか、リズムがイモだとか、特に希少
なベースを探す手間もいらなくなります。ジョ
ン・レノンが映画で口ずさんでいるメロディは
ベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番の一節だ、
と解るとクラシックももう少し演っとうか。
「イン・マイ・ライフ」では、プロデューサーの
ジョージ・マーチンが中間部に入れたバロック風
のピアノのアドリブがあるし、シュープリームス
がバッハのメロディを使った「ラヴァーズ・コン
チェルト」でヒット曲出してたな。と、こうなる
と、高校の頃には独習ピアノで月光ソナタ位かき
鳴らしていた気がします。男子校で目立っても、
特に何もご利益はありませんでしたが。

医学部に入った弘前の街は、太棹の津軽三味線
を中心とした民謡が盛んで、夜の街では結構ジャ
ズも流れていました。高橋竹山の生演奏は弘前

市民会館で2度くらい聴いたでしょうか。木田^{きだ}林松^{りんしょう}栄という頭からバチバチとタタイて煽るスタイルと、竹山の返しのバチで糸をスクって啼かせる、二大巨頭の演奏はいつもラジオから流れ、それ以外でも、綺羅星の如く演奏家たちがいました。お城の桜祭りのハイライトとして、近郷から集まった腕試したちが急ごしらえのステージで一日中競って演奏していましたから。この即興的な音楽づくりはジャズとも良く合う方向性でした。初代竹山の音は、これは人の心の奥底にこもっているものをジンワリ滲みださせながら、魂を揺さぶる即興的なフレーズを何処までも紡ぎ出す、彼一代限りの芸だったと思います。晩年、お江戸から馳せ参じた竹与さんが目の不自由な彼のステージ手伝いをしているところをお見かけし、師匠の没後に二代目を名乗った事は風の便りで聞いたのですが、洒落な女流の表現する世界を改めて竹山の名前で聴く気持ちにはなりませんでした。

ジャズの方では、街に出てダンスパーティの伴奏をすれば些少の小遣いになるからと、一級後輩の連中に誘われて、医学部に伝統的にあったボロの部室を占拠し、当時有名だったMJQに因んだと思われる伝統のバンド名MCQを名乗って、いつ調律したか分からないアップライトでリハーサルしたものです。ギターのバンマス唐牛忍 Dr の持ち込む楽譜のコピーを基に上手とは言えない同士、合奏で入りリベラルに1人ワンコーラスずつのソロを演じて全奏で締めるパターンで場を繋ぎました。ドラムが付くと、バッハやモーツァルトも洒落たジャズになるのですが、フレーズによって自然に伸び縮みしたいところでは、にわか合わせにボロが出ます。それでも、あとから考えると、良い経験をさせて貰ったものです。

当時の弘前の空気感の中で、凄いピアニスト佐藤允彦が有名だった中山千夏と来弘して、夜中までジャズパブで親密そうだったゾ、と噂になると、暫くしてお二人の結婚が東京で報じられたりしたものです。青森から上京した面白い娘が次第に有名になっていた坂本龍一を連れてきて、弘前市民会館でデュエトリサイトをするというのが、矢野顕子の若い姿に触れる機会でした。あのホールのスタインウェイピアノから、ブルージで活きた音が溢れてきて驚き、歌わないでピアノに専念してくれたらどんなにか素晴らしいだろうにとの思いが心に浮かびました。勿論その願

は、遂に聞き遂げられずじまいですが、彼女が生ピアノ・坂本龍一がシンセサイザーを受け持ち30分間位即興で繰り広げた婦唱夫随のデュエット＝バトルは、忘れることのできない凝縮した時間の記憶です。その後の坂本龍一が、YMOや映画音楽からワールドミュージックへと展開していく糸口は、ミ～んな既にあそこにありました。

さて、大学紛争をくぐり抜けバドミントン部とMCQで忙しかった医学部生活も、6年目になると卒試と国試が近づいてきます。ヨカラヌ誘いとして後で母校の教授になる藤哲 Dr が、パブでのバイトの口を持ってきたのは、その頃でした。幸い、クラブ諸活動も後輩に渡した後ですから取り敢えずノッてみて、ジャズからは足を洗い始めていたし、現代音楽系で民族音楽の響きをピアノ曲にしていた松平頼則さんの楽譜なども持ち込み、時間制でリクエストなし即興のみの出演という条件で何度か応じてみました。街のピアノ弾きのプロたちが興味を持って来てくれている、と聴いたのはその何回目かの頃でした。これで生活が安定すればそれもアリか、というところですが、そう簡単に問屋はおろしません。学校の方では立て続けに罰ゲームの様な試験を用意して、日頃の不足を補うように追い立てます。さすがに、試験勉強の機会が増えると、軽くヒッカケながら鍵盤と向き合う時間も減って、パブ勤めも足が遠のきます。何個目かの試験の塊をクリアして、行ってみた何時ものパブの景色が変わっていました。「オジさんここにあったピアノは？」「ああ、アンタ最近来ないからアレ売ったよ。」そう、そこには買い足したテーブルと椅子が入って、手狭な店でも客のためのスペースが少し増えていたのです。

お陰で卒業前に失業を味わった私の方は、試験勉強に身が入るようになり、できたばかりの脳神経外科医局に入局して、新たな就職口で専門医まっしぐらの生活になるのです。いわきに戻って東京に近づき、改めてクラシック音楽の道で亡き近藤洋子先生に弟子入りした話は、長くなるので別の機会に譲りますが、現在挑んでいるJSバッハ作曲イタリア協奏曲では、たった一列の鍵盤で室内オーケストラ＝バンドとソロ楽器とのやり取りを想像し、演じ切る必要があります。そうなる昔の雑多な経験が役に立ち、無駄なモノは無かったな、と有り難く思い出しています。